

株式会社 Jina サロン

明石 春枝 さん

Akashi Harue





髪悩みの抱える女性に 高品質・適正価格のウィッグを提供

大手ウィッグ会社から独立、起業

株式会社「Jiro」サロンは2004年8月に創業した女性用オーダーメイドウィッグ（かつら）サロン。神戸市に本部を構え、ウィッグサロンのほか、美容室・ネイルケア・エステサロンも経営する。

明石青枝氏は以前、同業大手に勤務。髪の悩みを抱える女性に育毛ケアやウィッグの販売していた。大口契約を取り付けた実績などを買われ、入社半年で神戸店の店長に抜擢。8人の部下を統括し、店は全国トップクラスの成績を上げるなど、好調だった。スタッフや顧客に恵まれ、仕事にやりがいを感じていたが、経験を積むうちに、会社の営業方針と自分の考えに隔たりがあることに気づいたという。

一般的に、ウィッグ、育毛ケアの価格は決して安くはない。大手ではウィッグ一台が40万円、100万円が相場。病気による髪の悩みを持つ顧客も多く、切実な髪の悩みを抱える



ゆったりとしたシャランフースベース

女性たちを接客するうちに「もっと安く提供できないか」との思いを持つようになった。しかし、組織に身を置きながらの改革は難しい。「納得できる仕事をするには開業しかない」と、独立を決めた。

退職後、開業準備を始めた矢先に、古巣のウィッグ会社が倒産したという知らせが飛び込んできた。ウィッグのメンテナンスや育毛ケアを受けられず、困っている顧客の顔が浮かんだ。「自分を運じて会社を信用してくれた人たちは今、どんな思いをしているだろうか。いても立ってもいられず、覚えている名前を片端から電話帳などで調べ、アドレスオロしを請け負う旨の手紙を送付。まだ店舗がなかったため、顧客の自宅を訪問するなどして対応した。「いつまでもサロンがないわけには行かない。一日も早くお客様をアドレスオロしするためにサロンを出したい」と資金不足の現状にあせりながら、勇気を出して信頼できるお客様数人に相談した。すると、倒産後の誠実できめ細かな対応と、明石氏の思いに共感し、開業にあたっての資金を快く貸してくれた。



明るい雰囲気の店内(個室完備)

「一人でも多くの髪に悩む女性の力になりたい。女性の綺麗が社会を元気にできると感じています。そのために、いつも少しでも背伸びをしながら頑張っていきたい」といふ。

Company Profile

会社名：株式会社 Jina サロン
 創業：2004年8月
 所在地：兵庫県神戸市中央区二宮町4-7-6 ひらたビル4F
 代表：代表取締役 明石 香枝
 従業員数：6名
 TEL：078-252-8408
 URL：http://www.jina.jp/
 事業内容：
 ・オーダードウェットウィッグ・美容室・ネイルケア・エステティックサロン経営

全国の美容院を窓口 に普及を図る

「高品質、適正価格」が、製品・サービスの特長。ウィッグは、中国・青島の製製品最大手企業に製造を委託している。入手困難とされる最高品質の人毛を一本一本手で植えた非常に上質な製品で、顧客の要望に沿って指示通り中国で植毛したものを、サロンでまた1週間以上かけて点検し直し、余分な髪などを取り除き、顧客の希望通りのヘアースタイルに仕上げている。

会社では、大手で当たり前の大がかりな広告宣伝を行わず、営業のための人件費をかけず、さらには専用サロンの全国展開なども行わない。そうすることで、部分ウィッグで15万円〜30万円、金頭ウィッグで25万円〜40万円という、大手の半額以下の適正価格を実現した。広告や専用サロンに代わる営業販路として注目したのが、全国各地の美容室だ。地元で信頼されている美容室にウィッグを納品し、製品・サービスの普及を図る。製品の品質、技術に関しては自社が全責任を持ち、提携美容室に対してメンテナンスや技術講習などを実施する。提携先は現在20店。今後、さらに拡大を図っていく方針だ。

消費者の「大手ブランド志向」は強く、大手2社が市場の80%を占めているのが現状。事業展開は決して簡単でない。しかし、会社には大手に負けない品質とコスト競争力がある。

「ママは私の憧れ」 つらいとき、娘の言葉に励まされた

社会の一員として貢献したい

育児をしながら働こうと思われたのは、なぜでしょうか？

一人の女性として自立したかったということと、子育てが終わったら何も残っていない、というのでは寂しいと思ったからです。また、社会の一員として貢献できる自分がありたいという気持ちと、もちろん経済的な理由もあります。24歳で結婚し、1男2女を授かり、離婚後は、特に子どもたちを養っていくため、働かなければなりませんでした。

ウイックの会社に勤務される前に、いろいろな仕事を経験されたそうですね。

まだ子どもが小さいころには、主婦業のかたわら、大阪のローカル誌で記者もしていました。文章は読むのも書くのも大好き。厳しい編集長に鍛えられながら、環境問題や介護保険法、地方自治のあり方など、硬派な話題に取り組みました。収入的には小遣い程度といったところでしたが、専業主婦では出会えないような方々にお目にかかり、取材をさせ



くつろげる空間が演出されている

ていただけたことは、かけがえのない経験となりました。

やがて未婚が小学校高学年になり、フルタイムで働くことができるようになり、ホテルのブライダルプランナーの仕事を始めました。お客様の幸せをお手伝いする仕事に生きがいとやりがいを感じ、たくさんの喜びの声や感謝の声が寄せられ、とても幸せな体験をしました。しかし、ホテルの経営が一時的に悪化。サービスが低下し、自信を持ってお客様に婚礼をプロデュースできないなどの悩みが生まれました。やがてブライダル以外の仕事やチケット販売などの負担が増えてきたため、退職を決めました。

心がけた「明るい笑顔のお母さん」

そして、ウイック会社に転職されたのですね。

そうです。娘2人が小さい頃から体操競技をしていて、2人ともオリンピックのジュニア強化選手に選ばれるほど、将来を囑望されていました。離婚後も彼女たちに体操競技を続けさせてあげたくて、それなりに収入を得られる会社に入らねばと考えていたところ、

ヴァンガード会社の美容カウンセラーの求人広告が目にとまったのです。

採用面接の後、すぐに正社員として採用され、大阪店で勤務を始めたのですが、来る日も来る日も先輩社員のお世話など雑用ばかり。重要な仕事を任せられる気配はまったくなく、転職すら考えていたとき、神戸店に欠員が出て異動を打診されました。社内でも評判の厳しい店長だと聞いていたので迷いましたが「チャンスと受け止め、ダメもとで挑戦しよう」と転職しました。私よりの機も若い上司の下で、予想をはるかに超えた理不尽な厳しさに思い悩む日々が続きました。何度も「辞めたい」と思いましたが、「世帯主として子どもの学費や生活費を稼ぐためにも、ここで辞められん」と自分に言い聞かせて陣を張りました。この経験のおかげで、世帯主として働く男性達が、どれほど社会の中で辛抱強く働き続けているかが実感できましたし、私自身も、苦手だった忍耐力が少しはついたような気がします。帰りの駅のホームで、自分のふがいなさに思わず涙したことも何度かありますが「家に帰ったら明るい笑顔のお母さんでいよう」と心のスイッチを切り替えています。

その後、少しずつ実績を積み、周囲からの信頼を得ることができるようになりました。そしてある日、接客したお客様から思いがけない大口の契約をいただいたのです。新人の私が出した結果に会社が驚き、入社後半年にもかかわらず、神戸店の店長を任せられることになりました。

「良かったことにする」

家庭と仕事との両立のコツをお教えください。

ときには、手を抜くことですね。無理しすぎないこと、そして気晴らしに外食もします。休日の家事は、できるだけ楽しんでやるように心がけています。フルタイムで働き始めたのは、下の子どもが小学校高学年になってからだったので、3人の子もたちはみなある程度自立し、自分のことは自分でできるようになっていました。仕事と育児の両立で困る



娘たちと旅行したトルコにて

たという経験はあまり、ありません。ただ、体操選手だった娘2人の試合が全国各地であり、独立前は応援のためにその都度休暇をもらうのが難しかったです。できるだけ日ごろから仕事を頑張らせて、休みをもらえるように努力していましたね。

「キヤリアマザー」として、いつも心がけていることを教えてください。

子どもに仕事を理解してもらい、精神面で応援してもらっています。かつて、仕事のことでも落ち込んでいたとき、

娘が手紙をくれました。手紙には、「ママは私の憧れです」とつづられていました。軍戦苦闘をしている母親を見て気遣ってくれたのでしょう。激励してくれた娘の気持ちに「負けたらあかん」と書いていただきました。しんどかったとき、逃げ出したかったとき、いつも私を支えたのは「わが子の目から見て恥ずかしくない母親でいよう」という気持ちでした。

子どもさんたちに支えられてきたんですね。

これからは、どのような経営者でありたいと考えられますか。

女性が社会の第一線で働き続けるには、結婚、出産、育児、介護など、男性よりも多くの課題があります。できるだけワークライフバランスを考慮し、社員どうしが助け合って仕事ができるように配慮しています。また、女性経営者だからこそ注目されるという利点もあります。そのことに甘えることなく、女性ならではの長えを生かした経営者でありたいですね。

わが家には何かにつけ、「良かったことにする」という共通感覚があります。自分の選択は、たとえ失敗したとしても、それを良かったことにしなければ、自分が損をするという事です。今はもう体操競技を引退した娘たちも、選手生活の中でそれぞれにガガやスプリング、挫折などを経験しつつ、その感覚を身に付けてくれたようです。人間ですから、

❁ わたしを支えるもの



子どもたちと過ごす時間

いつも前向きに考えられるわけではありません。当然ネガティブな気持ちになることもあります。

しかし、それに気づき、自分の意思で思い直すことが大切です。その繰り返しで心を強くするトレーニングになると思っています。私自身、今に至るまでリタイアや速回りなど、さまざまな経験をしてきました。どの経験も無駄ではなかったと実感しているからこそ、これからも「良かったことにする」生き方で、今まで応援し支えてくださった周囲の方たちに、恩返しができるようになりたいと思っています。